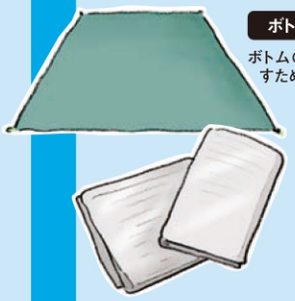
テントと一緒に揃えたい

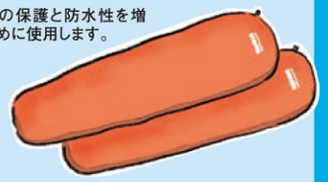
フライシート

防水性を高めるほか、本体との間にできた前室に、靴やポールなどを置いて居住空間をアップできます。



ボトムシート

ボトムの保護と防水性を増すために使用します。



シュラフマット

シュラフマットを使用することで快適なテント生活が楽しめます。軽量・コンパクトなので持ち運びも安心です。

テントマット

テントの床に敷くことで、地面からの冷えや湿気を防ぎます。

ヘッドランプ

夜間のトイレや非常用として必ず携行しましょう。予備電池も忘れずに。

シュラフ

優れた保温力を持ちながらとてもコンパクトにたためるダウンと、安価でメンテナンスが楽な化繊のものがあります。用途や温度に合わせてチョイスしましょう。

メンテナンス

- カビや臭いの原因を取り除くために一番大切なことは、しまう前に良く乾燥させることです。テントの素材である化学繊維は紫外線による劣化があるので、直射日光は避け、陰干しで乾燥させましょう。設営した状態で行うと、素早く乾燥できます。
- たたむ前には、テントを逆さにして中のゴミを出してからたたみましょう。たたむ時に付いた汚れも忘れずに落としてから収納しましょう。
- フレームやポールは泥や湿気を取ってから袋に収納しましょう。切れてしまったショックコードの修理などお気軽にご相談ください。

STARTER BOOK

テントがほしい。

Tent

スターターブック【テント】

石井スポーツ
ISHII SPORTS

テント山行の魅力

魅力 ❶ 自然を身近に感じられる

風の音や虫の声を聞きながら眠りにつき、朝の陽の光で目覚める。自然を肌で感じることができるのはテント泊ならでは。

魅力 ❷ 宿泊費の節約

山小屋泊と比べテント泊は、かなり安価に抑えられるのでとても経済的です。（目安　山小屋：1万円程度（1泊2食付）、テント設営代：1人500円程度）

魅力 ❸ 居住空間の確保

シーズン中、山小屋はとても混雑します。その点、テントならプライベート空間の確保ができ、また規則にとらわれず自分の好きな時間に自由に行動できます。

※テントが張れない場所もあるので、山行前に確認しておきましょう。

テント選びのポイント

❶ タイプ選び

山行スタイルをイメージしてタイプを選びましょう。

❷ 軽量・コンパクト

X-TREKファブリクスのテントはフライシートが不要なので、その分軽量化が図れコンパクトに収納できます。

❸ 人数

人数に応じたサイズを選びましょう。4〜5人のパーティの場合、大きいテント1張よりも、2〜3人用のテント2張の方が使い勝手がよいかもしれません。

❹ 趣向

テントでゆっくりと疲れを癒す「のんびり派」か、次々に山を越えていく「ガツガツ派」か、趣向に合ったタイプを選びましょう。

山行スタイル別テント選び

CASE１：テントをベースに

居心地の良さを重視

テントをベースにして、身軽にいくつもの山をピストンしたいというベースキャンプ型のテント選びのポイントは「快適性」です。間口が大きく出入りが楽で、大人数でもゆっくり休める大型タイプがオススメです。

CASE２：夏山縦走

コンパクト性と軽さを重視

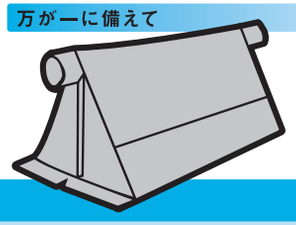
テントを担いで山から山へと移動する夏山縦走型のテント選びのポイントは「軽さ」です。本体が防水透湿性素材のX-TREKファブリックを使用したテントは、単体での使用が可能なので、軽量化が図れるとともに設営時間の短縮にもなりおすすめです。

CASE３：厳冬期の雪山

過酷な環境に耐えられる強度と保温性

厳冬期の本格的な雪山登山用のテント選びのポイントは「保温性と強度」です。装備が増え荷物も多くなる雪山には、空間を広く確保でき強風にも耐えられるようにフレームのしっかりとしたドーム型のテントがオススメです。

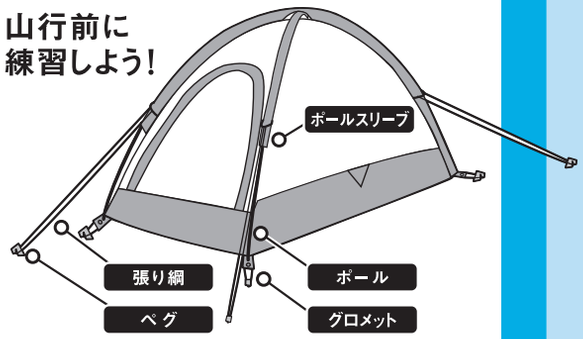
万が一に備えて



たとえ日帰りハイクや小屋泊まり山行でも、予期せぬアクシデントや気象の急変に備えてツエルトを携帯すると安心です。

設営方法

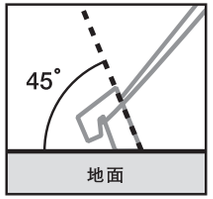
山行前に練習しよう！



1. 地面を整え、テント本体を広げます。
2. ポールをスリーブに通し、先端をグロメットにセットします。
3. テント本体を立ち上げ、ペグを打ち固定します。
4. フライシートをかけ、テント本体に固定します。※フライシートが必要ないテントもあります。
5. 張り綱をペグ打ちして完成です。

ペグ打ちのポイント

ペグは地面に対して45°の角度で打ち込むと抜けにくくなります。



設営場所の選び方

- 日当たりがよく、水はけがよい。
- 強い風が直接当たらない。
- 日中は日陰を作ってくれる。
- 落石や土砂崩れの心配がない。
- 落雷防止のため、大木の下は避ける。